



1996 (平成8年)

全広連静岡大会

今から5年前、1996年（平成8年）に、静岡県広告協会が設立5周年を記念して、第44回全日本広告連盟の「静岡大会」を主管した時の記録です。

この静岡大会では、全国36協会から1,200人が参加しました。設立間もない大事業でしたが、見事な成功を収め、静岡の実力を全国にアピールすることができました。

大会テーマ

「信頼のコミュニケーション

いま『ふじのくに』から」

- ◆日時／平成8年5月22日（水）
- ◆場所／静岡市民文化会館
- ◆主催／社団法人全日本広告連盟
- ◆主管／静岡県広告協会



実行プログラム

▽大会式典

1. 開会宣言 2. 歓迎あいさつ
3. 大会あいさつ 4. 来賓祝辞
5. 通常総会報告 6. 平成8年度全広連活動目標とテーマ朗読 7. 第4回全広連広告大賞表彰と受賞者挨拶 8. 平成8年度全広連特別功労者表彰と受賞者挨拶 9. 第45回全広連大会開催地・協会紹介と挨拶 10. 閉会

▽記念講演会

- ・テーマ／「大航海時代の日本～“徳川の平和”に学ぶ～」
- ・講師／芳賀 徹（はが・とおる）
（比較文化史家・文学博士）

▽広告問題研究会

- テーマ「女性とメディアの新時代」
～いま、広告は女性に届いているか？～
- コーディネーター 残間里江子（プロデューサー）
- パネリスト 島森路子（「広告批評」編集長）

田丸美寿々（ジャーナリスト）
吉永みち子（ノンフィクション作家）

▽アトラクション

- テーマ「静岡生まれの童謡の数々」
- 〔出演〕静岡児童合唱団、音羽ゆりかご会、松島トモ子

▽広告主懇談会

- テーマ「市場変化に“応える”、需要を“創る”広告戦略」
- コーディネーター 八巻俊雄（東京経済大学教授）
- 講師 中島 将（味の素広告部長）
- 服部隆二（富士ゼロックス広告宣伝課）
- 春原聡博（富士通宣伝部長）

▽大会懇親会

- ・会場／ホテルアソシア静岡ターミナル3階

▽見学会

- 静岡県内6コース（レディースを含む）

こんな歓迎のごあいさつで 全国からお客様を迎えました。

さわやかな新茶の季節に、全国の皆様を静岡にお迎えできますことは、私ども静岡県広告協会にとりまして大きな喜びであります。心から御礼を申し上げます。

日本は「発展の時代」から「成熟の時代」へ変化しているといわれます。新しい時代に向けて、この時代の変化をどうとらえ、対応していくか、私どもの器量が問われています。

静岡大会のテーマは「信頼のコミュニケーション、いま『ふじのくに』から」です。私ども広告の世界にかかわる者に求められているのは、「信頼のコミュニケーション」の構築と、新しい時代をリードする「広告文化の創造」ではないかと考えております。

日本のシンボル富士山を戴く、この「ふじのくに」静岡で、この時代の節目の時期に、日本の広告に関わる皆さまが集い議論を深めていただくことは非常に意義あることだと思います。皆さまにとって、この静岡大会が実りある大会になれば幸いです。

第44回の大会は、私ども静岡県広告協会の設立5周年を記念して開催させていただきました。新緑の静岡を満喫していただくようお願い申し上げます。

静岡県広告協会
会長 大石益光

記念講演会

徳川家康の大御所時代、駿府（現静岡市）は政治の中心地でした。記念講演は、その静岡ゆかりの家康をテーマに比較文化史家・文学博士の芳賀徹氏をお招きしました。



演題

「大航海時代の日本～ 『徳川の平和』に学ぶ」

講師／芳賀徹氏（比較文化史家・文学博士）

16世紀の大航海時代は、インド航路発見、マゼランの世界一周など波乱に富んだ劇的な時代だった。その波は日本にも打ち寄せ、鉄砲やキリスト教とともに海外の情報が持ち込まれた。情報が横なぐりに入ってくるような状況は今と似ている。

情報をよく吸収し活用したのが、ウィリアム・アダムス（三浦按針）を重用した徳川家康。将軍を情報面でサポートしたアダムスは、家康にとって水先案内人だった。

その後、日本は鎖国する。しかし、これは外交政策として評価できる。当時は欧州も中国も新旧勢力交替の最中だった。海外情報をよくキャッチしていた家康、秀忠、家光の3人の将軍が世界史の激動から日本を守ったともいえる。

こうして、日本は世界史上にもまれな時間的にも空間的にも完全な一文明体を形成した。島原の乱の後、戊辰戦争まで約250年間、銃声がしなかった「完全な平和」は世界史上の奇跡。この平和こそ、徳川の最大の遺産といえる。

広告問題研究会

広告問題研究会では、メディアの最先端で活躍する女性陣4人が“女性と広告のかかわり”について語り合いました。このパネルディスカッションは、一般にも公開され、事前にハガキで応募した約500人も参加し、熱心に討論に聞き入っていました。



田丸美寿々さん



島森路子さん



吉永みち子さん



残間里江子さん

テーマ／「女性とメディアの新時代」
～いま、広告は女性に
届いているか～

〔パネリスト〕

◆田丸美寿々さん

ジャーナリスト。広島県生まれ。東京外語大卒。テレビキャスターを務めた後退社し、米国留学。TBS「報道特集」のキャスターとしても活躍。

◆島森路子さん

「広告批評」編集長。秋田県生まれ。立教大卒。79年天野祐吉氏とともに「広告批評」を発刊。ニュースキャスターとしても活躍。

◆吉永みち子さん

ノンフィクション作家。埼玉県生まれ。東京外語大卒。日本初の女性競馬記者。85年「気がつけば騎手の女房」で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。

〔コーディネーター〕

◆残間里江子さん

プロデューサー。宮城県生まれ。明治短大卒。山口百恵の「蒼い時」を出版プロデュース、雑誌編集長などを務める。



印象に残ったひと言のコメント

田丸 「男性も女性も自分自身がどう生きていくかが大事。もう一つ、高齢化社会の到来で老人としてどう自立して生きていくかがある。そうなった時、広告は何を担っていけるか。優しい社会づくりの一端を担っていける広告業界であってほしい」

島森 「人間、夢がないと生きられない。これからの時代の新しい夢とは何か。どうやってつくっていくのか。そこに広告は大きく作用するのではないか。みんなが共通して求めるようなものを作り出す働きが、これからの広告には求められる」

吉永 「男へのアンチイメージだけでは新しいものが生まれにくかった。これからは男も女も、人間としてどう自立するかを考えるべきだろう。いまだに広告が女性をターゲットとした作り方をしていることが不思議」

残間 「広告は、私たちのライフスタイルの、少し先のイメージのヒントみたいなものを提供してくれる力があるのではないかな。願わくば、広告関係者のみなさんには人生のプログラムを多彩にもらって、何よりもいいと思ったものを主体的に伝えてほしい。期待と熱き思いを込めてハッとさせるような広告をお願いしたい」

アトラクション

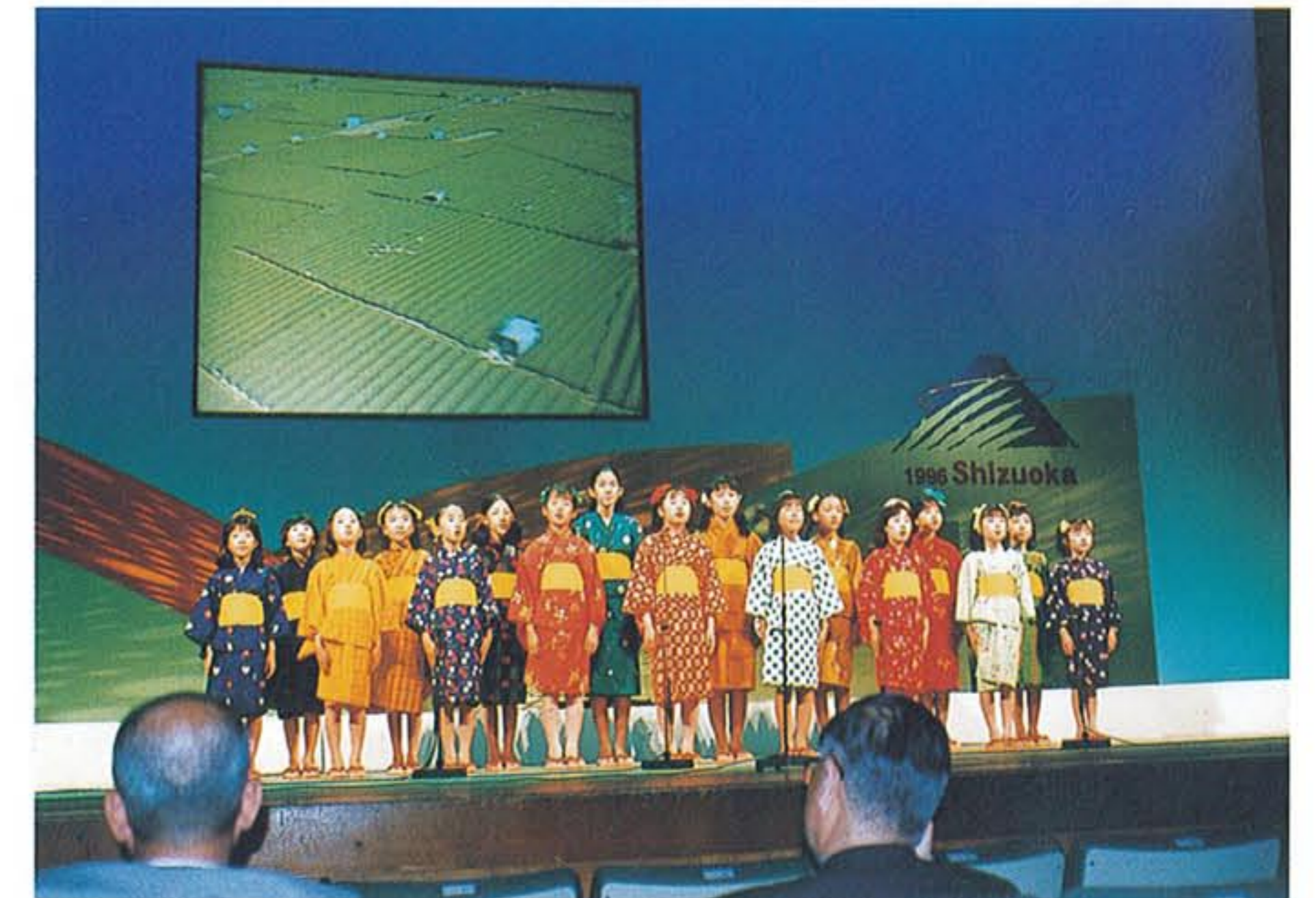
テーマ／「静岡生まれの童謡の数々」

出演／音羽ゆりかご会、静岡児童合唱団、松島トモ子さん

静岡県は、「童謡の宝庫」といわれている。気候温暖な風土と豊かな自然の中から、数多くの童謡詩人たちを輩出し、全国の皆さんに親しまれている童謡の名品を残している。その懐かしい「静岡生まれの童謡」を音羽ゆりかご会、地元の静岡児童合唱団、そして松島トモ子さんがたっぷり歌いあげた。



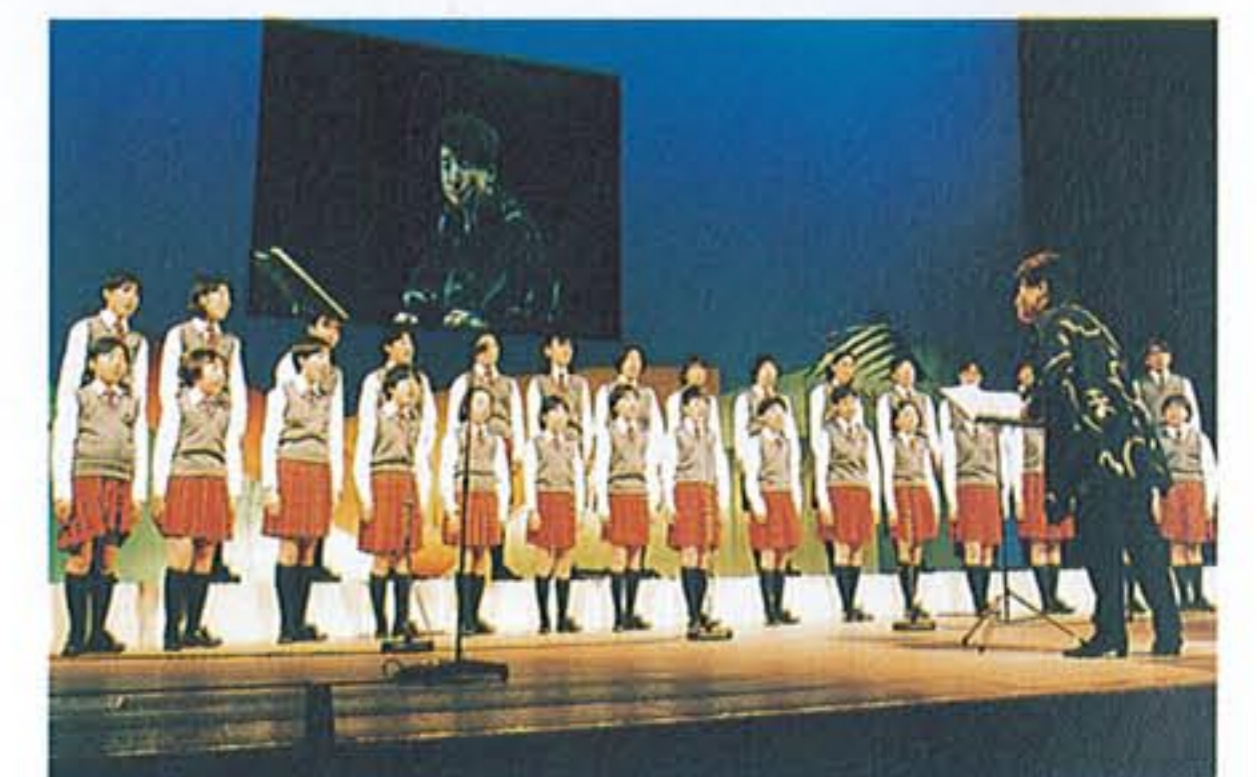
総合司会のSBS鈴木昭義、鈴木通代アナウンサー



着物姿で歌う「音羽ゆりかご会」の皆さん



音羽ゆりかご会



静岡児童合唱団



松島トモ子さん



フィナーレは全員で

広告主懇談会

広告最前線で活躍する関係者を講師に招き、会場を同市民会館大会議室に移して、「広告主懇談会」が開かれました。

テーマは、「市場変化に“応える”、需要を“創る”広告戦略」。

東京経済大学の八巻教授が基調講演した後、中島味の素広告部長が「ちゃんとちゃんと。味の素」、服部富士ゼロックス理事広告宣伝部長が「新しいドメイン、The Document Companyを目指すコミュニケーション活動」、春原富士通宣伝部長が「個人向けパソコンの広告展開」と題して、それぞれの広告戦略を報告しました。

テーマ

「市場変化に“応える”
需要を“創る”広告戦略」



講師

- 八巻俊雄（やまき・としお）
東京経済大学コミュニケーション学部教授
- 中島 将（なかじま・しょう）
味の素株式会社 広告部長
- 服部隆二（はっとり・りゅうじ）
富士ゼロックス株式会社理事広告宣伝部長
- 春原聡博（すのはら・としひろ）
富士通株式会社宣伝部長

大会懇親会



大会参加者1200人が参加する大規模なパーティーとなりました。「静岡浅間木遣保存会」の皆さんによるご祝儀木遣りで幕開けしましたが、静岡らしい懇親会を演出し、全国の関係者の交流の輪を広げようと駿河湾のサクラエビ、生シラス、丸子宿の麦とろろ、ウナギの蒲焼、天城シャモのロースト、安倍川もち、そして豊富な静岡の地酒も並び、歓迎もうんと弾みました。

